

東浦町景観計画策定の

ワークショップだより

Vol.5 (平成 25 年 12 月) 発行:東浦町建設部都市計画課

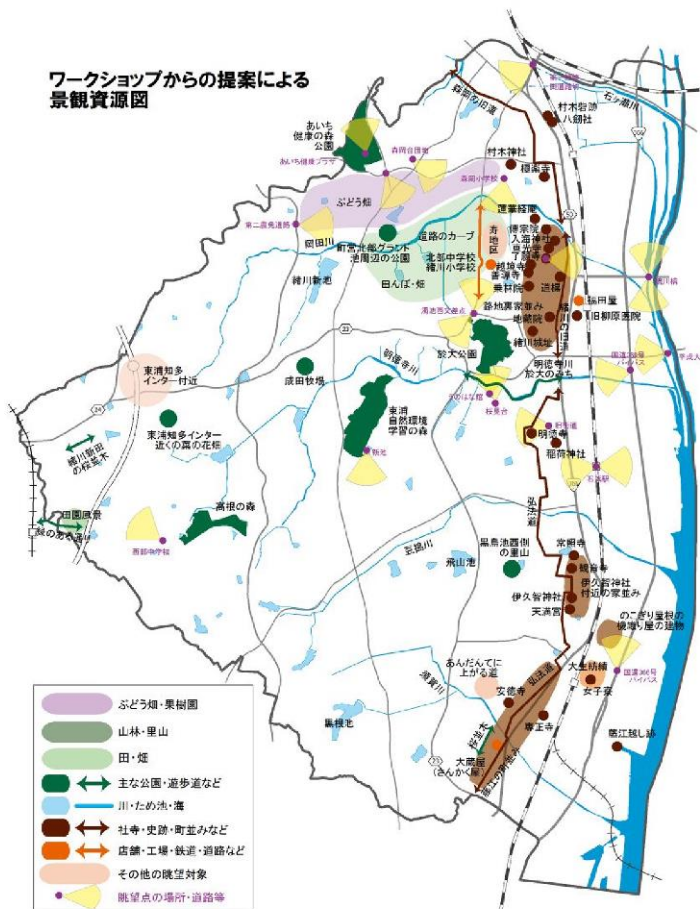
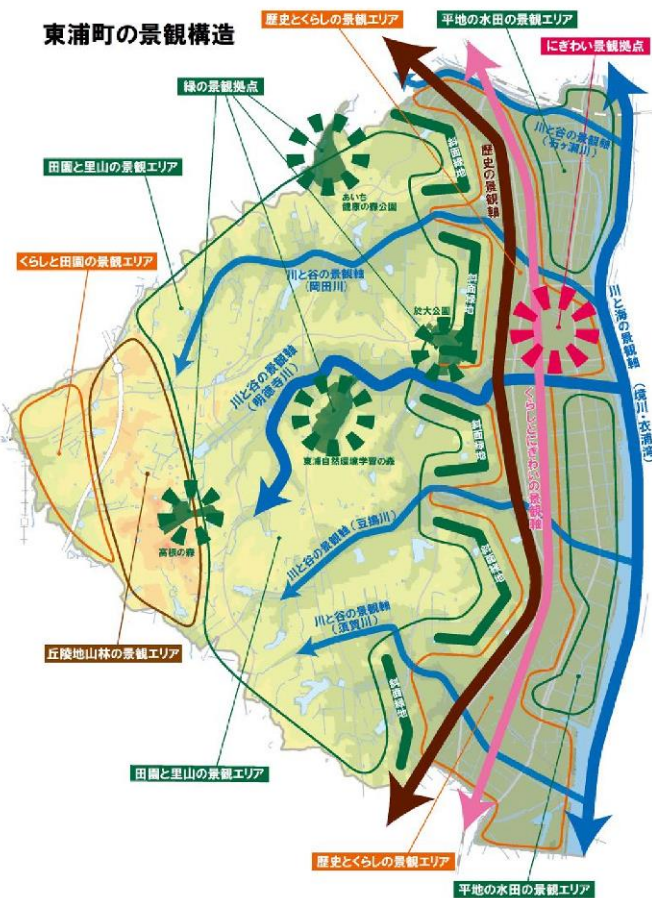


第5回では、ワークショップからの提案による景観構造図と景観資源図を作成しました。

「東浦町景観計画策定のワークショップ」は、11月30日に第5回目を開催しました。今回は、これまで検討してきた景観構造図と景観資源図をみなさんと仕上げ、町に提案していただきました。また、今後の景観づくりの方針やアイデアについて意見交換していただきました。5回のワークショップを通じて、参加者のみなさんには景観づくりの重要性を認識していただき、今後、住民を広く巻き込みながら、着実に進めていって欲しいとの意見をいただきました。ワークショップの最後には神谷町長も参加し、景観づくりへの想いを皆さんと意見交換しました。

<ワークショップ提案の「景観構造図」>

<ワークショップ提案の「景観資源図」>



<今後の東浦町の景観づくりに対する意見・提案>

景観づくりの考え方	<ul style="list-style-type: none"> ◆田園景観より、里山などの自然を大切にすることを強調したい。 ◆目に見える景観資源だけではなく、古い地名なども伝え残していきたい。 ◆景観形成により、東浦町の産業構造が見えるものにしていきたい。 ◆町並みの空き家は、家主との関係から難しい面もあるが、「残したい」「活用した」という住民の想いは明確にしておく必要がある。 ◆空き地・空き家は、地域では負の側面もあるため、これを踏まえた対応を考えたい。 ◆将来的に町外から東浦に新しい人が移り住んだ時に、潤いを感じられる景観にしたい。 ◆じっくりと腰を据えて景観づくりに取り組むことが必要だが、ひとつひとつ着実に取り組むようにしていきたい。 ◆景観づくりには草刈り、落ち葉拾い、ゴミ掃除など、地味な作業も大切である。現在も地域の方が苦労しながら景観が維持されており、このことも表現していきたい。 ◆景観づくりを通じて、東浦に対する住民ひとりひとりの意識を濃くしていきたい。
景観計画の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ◆大切に残したい景観資源が失われている現状がある。景観計画において残したい根拠やポイントを明確に記載したい。 ◆住民の「保全したい」の想いを景観計画で表現したい。 ◆明德寺川を守る取組のように、住民の取組みや組織が大切であることを強調したい。 ◆景観づくりが現状維持優先で、今後新しいまちづくりができないような印象にならないように、うまく表現していきたい。前向きで夢のある景観計画にしたい。 ◆名古屋に近く暮らしやすい街なので今後もしばらく人口増になると思うが、無秩序な開発にせず、景観のよい質の高い住宅地を誘導したい。 ◆今回のWSのメンバーだけではなく、多くの人の意見を取り入れる機会が必要だと思う。居住地として、東浦に住んでいる人の意見を大切にしたい。
景観づくりの基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ◆東浦町特有の地名やキーワードを入れながら、想いを込めたタイトルをつけたい。(オニバス、オオタカ、カワセミ、野生の残る自然、里山、於大の里・・・) ◆自然・田園・歴史や新しい街が、コンパクトにまとまっていて、近くでいろいろな景観資源に出会えるという、東浦の景観の特徴を入れたい。



<<今後の予定>>

- 今回のワークショップからの提案を踏まえて、3月までに「景観計画中間報告書」をとりまとめます。
- 平成 26 年度には、住民の代表者や有識者により検討委員会を設置し、「東浦町景観計画」を策定し、景観づくりをスタートさせます。